

自治体の課題、現状

- ・出生数は減少傾向にあり、少子化に伴う生徒数の減少により、学校単位での部活動が難しい状況がみられることから、生徒がスポーツ活動に継続して親しむことができる機会の確保に早急に取り組む必要がある。
- ・大分県では令和5年3月に「大分県の学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を策定し、休日の部活動について令和7年度末までに地域クラブ活動へと移行することを目指している。
- ・県内の多くの市町村において、検討委員会等により受け皿団体や指導者の確保等の課題について議論し、地域の実情に応じた取組みを始めている。

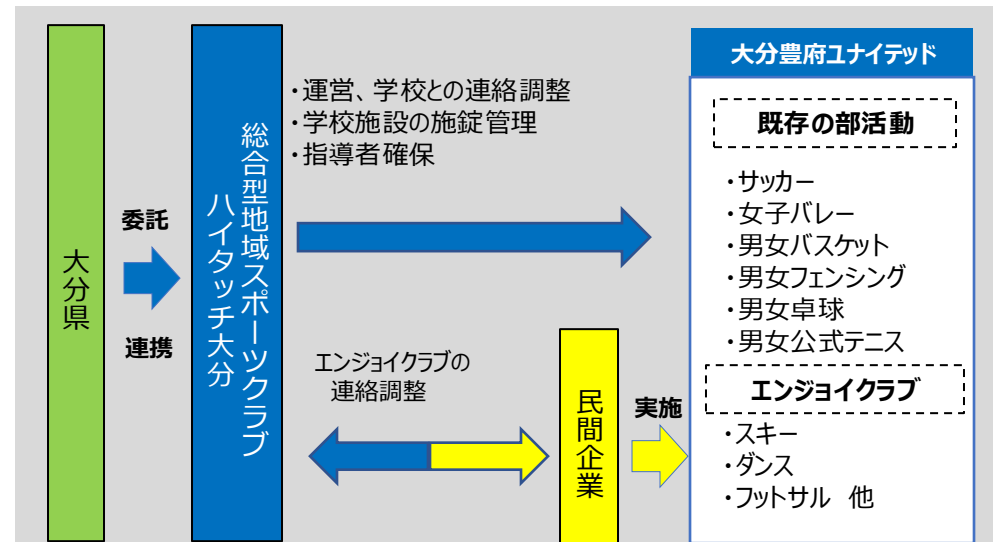
地域スポーツクラブ活動等の概要（実証事業実施）

中学校数	25校	全生徒数	10,935人
域内の部活動数	171部	実施した地域クラブ数	26クラブ
全体の指導者数	76人	全体の運営スタッフ数	61人
主な運営団体	市町村教育委員会、総合型地域スポーツクラブ、等		
主な種目	陸上競技、剣道、サッカー、等		
平均的な活動回数	7回程度/月	年間平均参加生徒実数	20人程度/クラブ
参加会費	約20千円/年	主な活動場所	学校、社会体育施設

地域移行関連の取組、成果

- ①年間3回の市町村担当者会議を実施し、先進事例や課題の共有を図った。3回目で行ったシンポジウムには、各市町村行政担当者だけではなく県内各郡市の中学校体育連盟関係者等も参加した。
- ②人材バンクの開設や市町村サポートをはじめ、県全体で地域移行を推進するしていくための市町村への取組み支援を実施した。  
※①②はイマチャレ製作委員会及びアスフィール株式会社との連携
- ③市町村が地域移行への取組みを始められるよう、県独自の補助事業により走り出しの支援を行った。
- ④県立中学校生を対象とした地域クラブを新たに立ち上げ、運営を総合型地域スポーツクラブが行い、既存の部活動におけるクラブ活動に加え、スキーやダンス等の生徒ニーズに対応したエンジョイクラブ活動を実施した。

県立中学校における運営体制図



自治体の課題、現状

竹田市では、少子化の進行により、学校単位でのチーム編成が困難になり、部活動の継続が厳しくなっている。特に、競技人口の減少により対戦相手の確保や大会参加が難しくなるなど、競技環境の維持が地域全体の課題となっている。これに対応するため、陸上競技では「TAKETA T&Fクラブ」、剣道では「竹田剣友会」などが受け皿となり、地域クラブとしての活動が進められている。しかし、指導者の確保や育成、財政面の安定化が課題となっており、今後は企業版ふるさと納税や基金を活用し、持続可能な運営モデルを確立する必要がある。

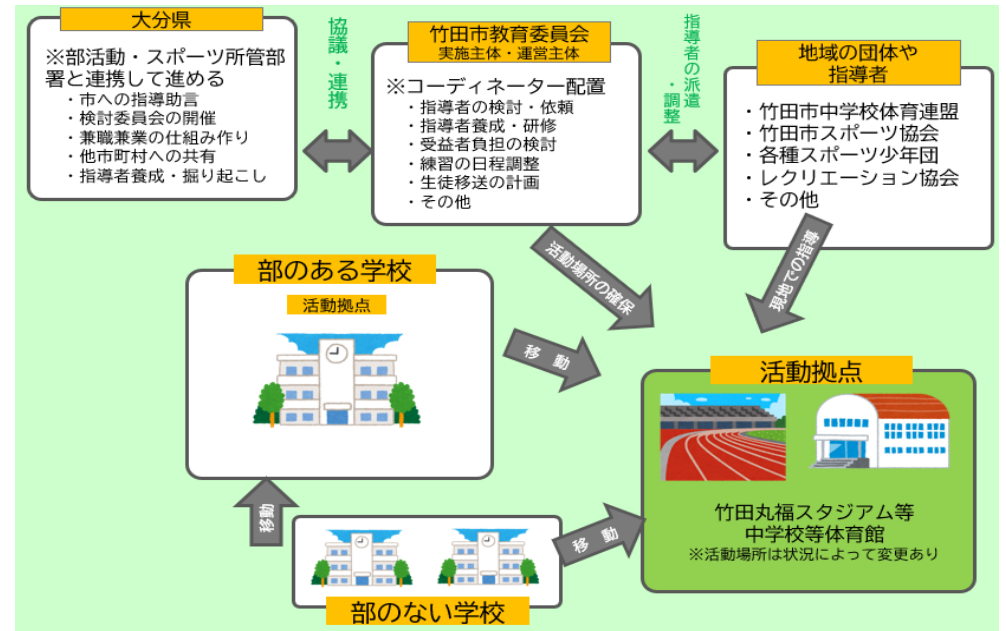
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	379人
域内の部活動数	12部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	10人
主な運営団体	竹田市教育委員会		
主な種目	陸上、剣道		
平均的な活動回数	12回/月	年間平均参加生徒実数	3年：4人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：13人/クラブ
参加会費	2,000円/年	主な活動場所	丸福グランド 竹田中学校

地域移行関連の取組、成果

竹田市では、運動部の地域移行を円滑に進めるため、**既存の地域クラブとの連携や新たな受け皿の整備**に注力した。陸上競技では「TAKETA T&Fクラブ」、剣道では「竹田剣友会」が受け皿となり、学校の枠を超えた活動を可能にしている。また、**地域のスポーツ団体や少年団と協力し、練習環境を確保することで競技の継続**を支援した。生徒の移動負担を軽減するため、**スクールバスを活用し、市内4校の生徒が集まれる体制**を整備。財政面では、市が指導者謝金や運営費の一部を支援することで、持続可能な運営を目指している。今後も指導者の確保や競技環境の充実を図り、地域スポーツの振興に努めていく。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・市内には中学校が6校あり、中心の中学校に全体の74%の生徒が在籍しており、残り5校は小規模校となっている。そのため中学校によって部活動の種類に大きな差がある。特に周辺校は生徒のニーズに応じた部活動が困難な状態である。
- ・地域移行の取組の現状としては、令和4年度豊後高田市部活動検討委員会を設立し、地域移行ガイドライン作成、教職員・保護者・児童生徒へのアンケート実施、リーフレット作成等、国の動向に注視しながら基盤をつくってきた。
- ・地域移行を進めるにあたっては、生徒一人ひとりのニーズに応じた持続可能なスポーツ・文化芸術環境を整備するための体制づくり・財源の確保・人材の確保が大きな課題である。

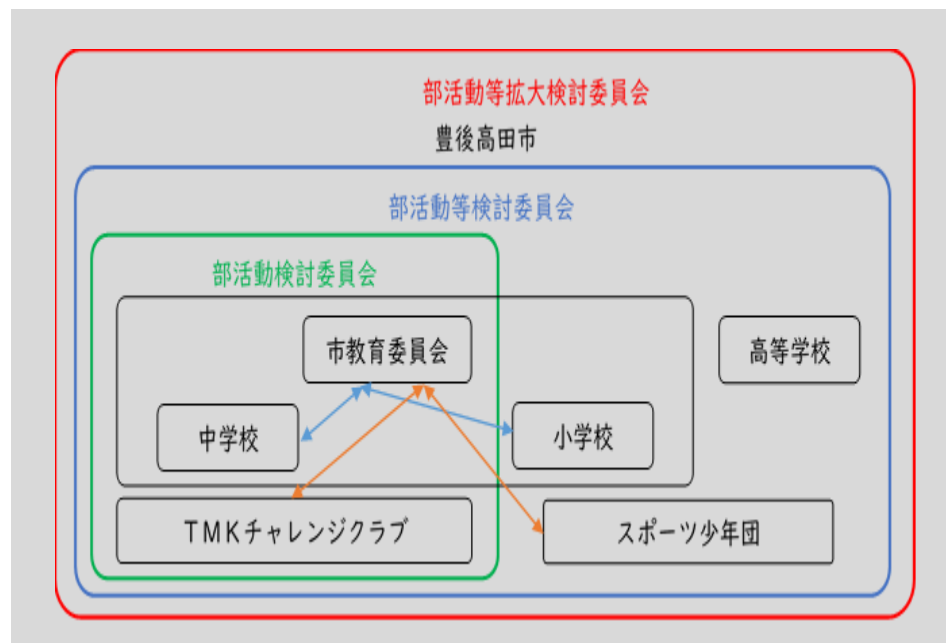
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	6校	全生徒数	475人
域内の部活動数	42部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ NPO法人「TMKチャレンジクラブ」		
主な種目	カヌー		
平均的な活動回数	15回/月	年間平均参加生徒実数	3年：1人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：1人/クラブ
主な活動場所	市内カヌー競技場		

地域移行関連の取組、成果

- ・総括コーディネーターを配置することで、地域クラブ活動の整理・地域指導者の確保・総合型地域スポーツクラブNPO法人「TMKチャレンジクラブ」の整備等、関係団体と連携をしながら進めることができた。
- ・今後の方向性として、「生徒や保護者、地域住民等の理解を得つつ、活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な会費を設定する」ことから、実際の収支構造を基に分析していくことで、受益者負担額の設定や運営主体の収支構造を検証を進めることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・豊後大野市は、7つの中学校があり生徒数もわずか700人程度である。その内6校は小規模校で、部活の種類も少ない。今後、生徒数も減少していき、部活の存続も厳しくなっている。
- ・地域移行の取組の現状は、総合型で4部活、スポーツ少年団・個人運営型で4部活が地域クラブ化しており、R7年4月より1つ追加し9部活となる。
- ・地域移行を進める上での課題は、残りの部活動の受皿及び指導者が課題である。また、地域が広く移動の負担についても課題である。

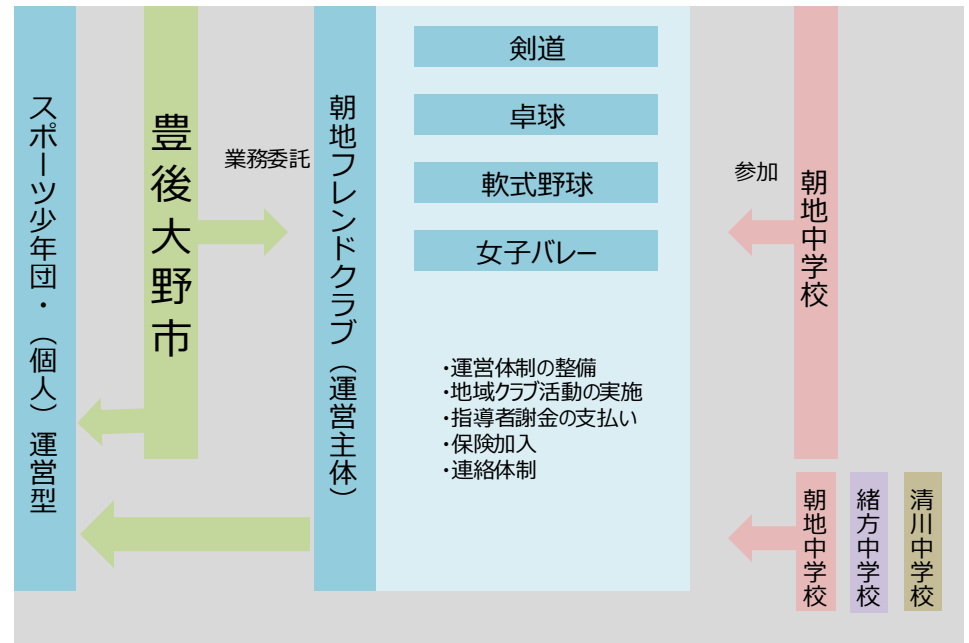
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	7校	全生徒数	730人
域内の部活動数	52部	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	33人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ運営型 スポーツ少年団・個人運営型		
主な種目	軟式野球・剣道・卓球・バレー・柔道・ソフトボール・サッカー		
平均的な活動回数	3回/月	年間平均参加生徒実数	新人チーム 2年：4人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	R6の徴収は無し (総合型クラブ会員は年会費等あり)	主な活動場所	学校,社会教育施設

地域移行関連の取組、成果

- ・新たに4つの競技において、スポーツ少年団・個人運営型での地域クラブ化がスタートできた。
- ・学校の部活動時間の短縮（下校時間の変更）ができた。
- ・内部検討委員会、協議会、スポーツ少年団関係会議等を開催又は参加し、地域クラブ化に向けての協力依頼や周知ができた。
- ・市内全ての学校を訪問し、児童生徒に対して地域移行説明会を実施することができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

地域移行の現状は、「由布市学校部活動及び新たな地域クラブの在り方等に関する方針」を作成し、令和6年度からは挟間中学校区において「総合型スポーツクラブ」が受け皿となって組織づくりに取り組んでいる。

地域移行を進めるにあたり、庄内町と湯布院町の地域移行（指導者派遣）の受け皿が未定であることが課題である。

部活動の合同型や拠点校型等の対応のために、各校の部活動主任と協議を行い、準備を進めていく必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

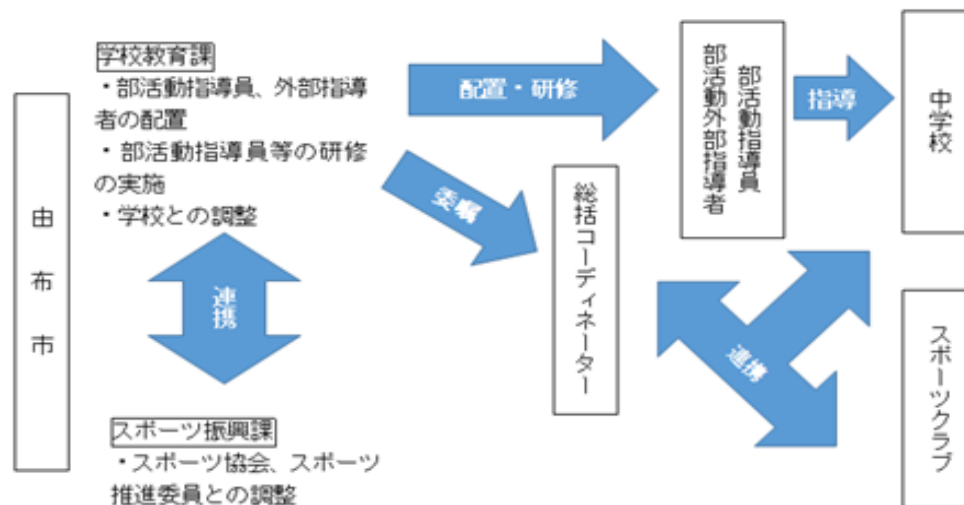
中学校数	3校	全生徒数	841人
域内の部活動数	28部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	総合型スポーツクラブHASAMA		
主な種目	バドミントン、バレーボール		
平均的な活動回数	10回程度/月	年間平均参加生徒実数	3年：3人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：3人/クラブ
参加会費	バドミントン： 12,000円/年 バレーボール： 36,000円/年	主な活動場所	挟間中学校 挟間体育センター

地域移行関連の取組、成果

教職員との連絡調整、保護者への説明、総合型スポーツクラブとの協議に取り組むために総括コーディネータを、指導者の育成や確保等のためにコーディネータを配置し、総合型スポーツクラブの実態や以降の把握、中学校の現状等を把握でき、課題解決につなげることができた。

令和6年度はバドミントンチームへ指導者を派遣し、指導者派遣の人数が増えても対応できるよう総合型スポーツクラブと協議を行ってきた。令和7年度はそのほか学校部活動にない種目についても現存する団体に働きかけていくように取組を進めている。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・年々生徒数が減少し、単独で活動できる部活動数も減少している。また、競技歴のない教師のみの指導体制の部活動も多く、専門的な指導を十分受けられない現状がある。
- ・令和3年度に部活動検討委員会を立ち上げ、部活動の地域移行に向けて検討を進めている。現状、平日も含めて地域移行が可能な競技から進めている。
- ・市内が広域のため、地域クラブ活動としての受け皿や指導者の確保、移行後の練習環境の整備等、今後の運営の在り方など様々な課題がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	520人
域内の部活動数	27部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	7人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ 市スポーツ連盟		
主な種目	サッカー、剣道、バスケットボール		
平均的な活動回数	3～4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：11人/クラブ 1年：21人/クラブ
参加会費	平均 44千円/年	主な活動場所	国東中・安岐中・市営グラウンド

地域移行関連の取組、成果

- ・令和5年度から国東市部活動コーディネーターを配置して、学校部活動の地域移行に取り組んでいる。本年度はコーディネーターを増員し、**学校部活動にある競技ごとの移行スケジュールの構築**と市内における**スポーツ・文化活動の体験の場の発掘**に取り組んだ。
- 市内ではサッカー競技が地域クラブとして活動していたが、本年度は剣道部活動において、地域の剣道団体が受け皿となり、**地域クラブ活動**に移行した。また、バスケットボール競技において新規に地域クラブが発足し、活動の幅を広げることができた。

運営体制図

